

多発性硬化症の研究

「Sema4A(セマフォリン 4A)および関連分子による多発性硬化症の病態解明」 に関する説明文

多発性硬化症(MS)の患者さんにとって早期診断と適切な治療は重要です。再発予防治療法としてインターフェロンベータ自己注射が広く行われており、安全性が高く、ある程度の効果は得られていますが、効果の乏しい患者さんもおられます。私たちのこれまでの研究で、MS患者さんの一部でセマフォリン4A(Sema4A)という物質が血中で増加し、著明に増加している患者さんはインターフェロンベータ療法が有効でない傾向があることを発見しました。

つまり Sema4A が高い患者さんには早めに別の治療法を選択することも視野にいれる必要があると考えています。今後より多くの患者さんのデータを集め、高次機能検査(認知機能)、生活の質評価を含めた情報を解析することで、治療法選択の基準として広く利用していただけるようにしたいと思います。

MSの亜型と考えられていた視神経脊髄炎(NMOSD)は、近年MSと病態が異なることがわかってきましたが、未解明の部分が多く治療法が確立していません。NMOSD患者さんでも、Sema4Aに関する研究を進めることにより新たな病態の解明や治療法に繋がる可能性が期待されます。本研究は大阪大学、富山大学、北海道医療センター、札幌神経内科クリニックとの共同研究として行い、Sema4A測定は大阪大学および富山大学神経内科にて行います。血清中のSema4Aを測定する際に、関連が予想される物質の研究も同時に施行し、さらなる病態解明や新たな診断治療法の開発につなげたいと考えています。

研究対象者

平成16年に本学倫理委員会で承認された「神経疾患における自己抗体の検討」研究(研究責任者 楠 進)にご協力いただき血清または髄液をご提供された方。

この研究にご協力いただいたことにより予想される利益と不利益

予想される利益

Sema4A測定により、適切な治療方法の選択に役立つ可能性があります。またこの研究により、新たな診断治療の指標が得られる可能性があります。

予想される不利益

予想される不利益はありません。血清(血液)は通常診療で採血された際の残りの血液を用います。

プライバシーの保護

試料(血液)を保存する際には氏名ではなく代わりに新しく符号(番号)をつけて保存し、個人名がわからないようにします。皆様の名前とこの符号の対応表は近畿大学医学部脳神経内科においてのみ保存し、外部へ情報が出ることはありません。医学の学会や論文等で検査結果に基づいた研究成果を発表することがありますが、その際にも患者さんを特定できないように致します。

研究結果について

研究期間は2023年3月末日までを予定しています。皆様の血液を用いて得られた研究結果についてお知りになりたい場合はお申し出ください。ただし研究期間を過ぎてからのお申し出には、ご希望に添えない場合があります。

研究から生じる知的財産権の帰属

本研究の結果として特許権などが生じる可能性があります。その権利は、国、研究機関、共同研究機関、および研究遂行者等に属し、皆様には属しません。

研究に同意されない場合

Sema4A測定に関する費用はすべて研究費で行いますので、皆さんの経済的負担はありません。また研究に同意されなくても治療を受けるに当たっての不利益は一切ありませんし、いつでも撤回することができます。

本研究に対する個別の同意を取得していませんので、情報公開用文書をもって通知いたします。研究に同意されない場合は以下の連絡先に御連絡下さい。宜しくお願い致します。

連絡先

近畿大学病院 脳神経内科
大阪狭山市大野東377-2
電話 072-366-0221

担当者: 脳神経内科 宮本勝一